

## グローバル社会の中で様々な人とつながり、共に生きる児童の育成 ～国際理解教育や外国語活動を通じた「グローバル人材」の育成を目指して～

千葉県印旛郡栄町立安食小学校 鈴木 佳子

### I 現状と課題

#### 1 現状認識

グローバル化が急速に進展する中で、学校では体験的かつ実践的な外国語教育を通してグローバル社会の中で人とつながるコミュニケーション能力の育成が求められている。また、国際理解教育の取組を通して、日本人としてのアイデンティティーの確立とともに異文化理解を深める教育が大切である。

昨年度より、栄町教育委員会と栄町学校教育振興会指定で「グローバル人材の育成～国際理解教育や外国語活動を通して～」の研究に取り組んでいる。安食小学校で目指すグローバル人材は、①コミュニケーションができる子②外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする子③自分の考えをもち自己表現ができる子④主体的に学びチャレンジする子⑤思いやりのある子⑥自国の文化の良さや異文化を理解し相手を認めることのできる子である。

#### 2 課題分析・アプローチの視点

30年度本校児童の実態調査から、「外国の人と話をしてみたい」「外国の人と友達になつたり外国のことについてもっと知りたい」という児童が少なく、日本や外国の文化や生活に関心のある児童も少ないことがわかった。

外国語活動において、主体的に考えたり、自己表現をしたりする活動やコミュニケーション能力を育成する活動が少なかったことが課題としてあげられる。

そこで、アプローチの視点として以下の3点をあげ、校長がリーダーシップをとり、研究を推進している。

- (1) 異文化やそれらをもつ人々を受け入れ、共に生きることのできる態度の育成～外国の方との交流活動を実施するためのコーディネートを行う～
- (2) 自国の文化や異文化の良さや違いを積極的に学ぼうとする態度の育成～自国の伝統や文化の良さを感得し表現する活動や外国の文化の良さを知ることのできる活動の企画～
- (3) 外国語活動の授業改善

### II 研究の概要

#### 1 取組の視点

- (1) 総合的な学習の時間や特活を使った国際交流活動
- (2) 外国の方との交流活動を実施するためのコーディネート
- (3) 自国の伝統・文化を学び、良さを感得し表現する活動の企画
- (4) 道徳教育や人権教育・パラリンピック教育を通して、互いに国を尊重し合える態度を育成するよう道徳科や特別活動の年間指導計画に位置付ける。各教科の中での外国についての学習や、グローバル人材の育成に向けての

指導のため、グローバル人材育成カレンダーを作成し活用するよう支援する。

- (5) キャリア教育を通して、外国との関わりについて学ぶ。企業と連携し、外国との輸出入など外国の人と関わっていくことが大切であることを学ばせる。そのため企業との関係をコーディネートする。また、教育課程への位置付けを明確にする。
- (6) 外国語活動の授業を、コミュニケーション活動を多く取り入れたものに改善する。また、主体的に調べたり自分の考えを表現したりする活動を取り入れる。
- (7) 外国語活動の中で外国の文化への興味関心を深める取組を位置付ける。

### III 成果と課題

#### 1 成果

- (1) 校長のリーダーシップにより教職員のベクトルがそろい、チームワークが高まり、国際交流活動が活性化され、児童のコミュニケーション能力や主体的に取り組む態度、チャレンジ精神が伸びてきた。また、相手を受け入れる思いやりの心が育ってきた。
- (2) 校長が自校の強みを見出し、国際理解教育に積極的に活用し、コーディネートすることによって、日本の文化や外国の文化に触れる機会を教育課程に位置付けることができ、児童の自己表現をしようとする意識や他国の文化を受け入れる意識が高まってきた。

#### 2 課題

- (1) 国際交流の場や自国の文化や異文化についてふれる機会を教育課程に位置付け定期的にコーディネートするために、関係機関との連携をさらに図っていかなければならない。
- (2) グローバル人材を育成するために、職員が意識し教科や特活の学習に取り組めるよう研修の企画や新しい情報の収集と職員への提供をしていく必要がある。

### IV 提言

- 1 校長は、リーダーシップを発揮し、グローバルな社会の中で様々な人とつながり、共に生きる児童の育成のために、キーマンを育て国際理解教育や外国語活動を進めるとともに、関係機関と連携し国際交流活動をコーディネートしていく。
- 2 教育課程への位置付けをしていくとともに、職員の意識を高めるために目標の明確化と共通理解を図ることが大切である。
- 3 校長自身が新しい情報を得るよう努め、研修を企画したり、職員へ情報を提供したりする。また、児童の姿を外部に発信し、地域と連携して人材の育成を図る。